

台風、集中豪雨に備えよう

季節：年間 時間：3時間

水害による被害を最小限にするために、私たちはどのような取り組みをすればよいのか考えてみよう。

日ごろから災害への備えを万全にし、いざというときあわてず、適切に行動できるようにしておくことが何より大切です。

準備と注意事項

- ・用意するもの：ワークシート、筆記用具、バインダー
- ・注意事項：進入禁止の表示のある箇所や、危険な崖等には近づかない。

進め方

1. 3～5人のグループに分かれる。
2. 資料を参考にして、台風や集中豪雨の水害に備え、自分の家の周りでできることを調べ、ワークシートにまとめよう。
3. 調べたことをグループで話し合って、まとめよう。

資料

資料1 「集中豪雨」とは？

集中豪雨とは、100km²以下といった狭い領域に、数時間で200～300mm程度以上という強さで降る雨を、一般に集中豪雨とよびます。

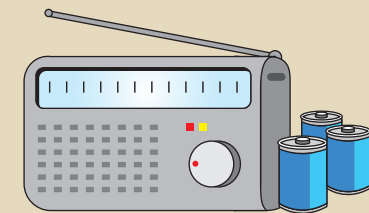
集中豪雨は、地形に関係なくどこでも起こりうる災害であり、洪水・浸水や斜面崩壊、高潮、土石流、落雷などの災害現象がおこりやすくなります。

被害の大きさは、自然素因（地形・地盤などの土地など）と社会素因（人口・施設・防災態勢など）によって変わってきます。被害を最小限に抑えるためには、日頃からの備えが必要です。

資料2 家庭でできる 台風・集中豪雨対策！

屋内では

- ・非常持ち出し品の用意をしよう
- ・気象情報を注意深く聞こう
- ・浸水の可能性のあるところでは、家財道具や食料品などの生活用品を高い場所へ移動しておこう
- ・病気の人などは、あらかじめ安全な場所へ移動しよう



屋外では

- ・窓ガラス、雨どい、屋根、ベランダ・庭などを点検しておこう
- ・特に家の周りでとばされそうなものは、室内に置いておこう
- ・ガスボンベ、看板、自動販売機、ブロック塀なども点検しておこう

資料3 山崩れの危険信号とは...?

わき水

- 普段、澄んでいるのに濁ってきた
- 量が増えた
- 今までかれたことがなかったのに止まった

山

- 斜面を雨水が走り始めた
- 斜面に亀裂が走った
- 石が転がり落ちてきた
- 地鳴りが聞こえてきた

注意報 災害発生の可能性があり、避難の心構えが必要

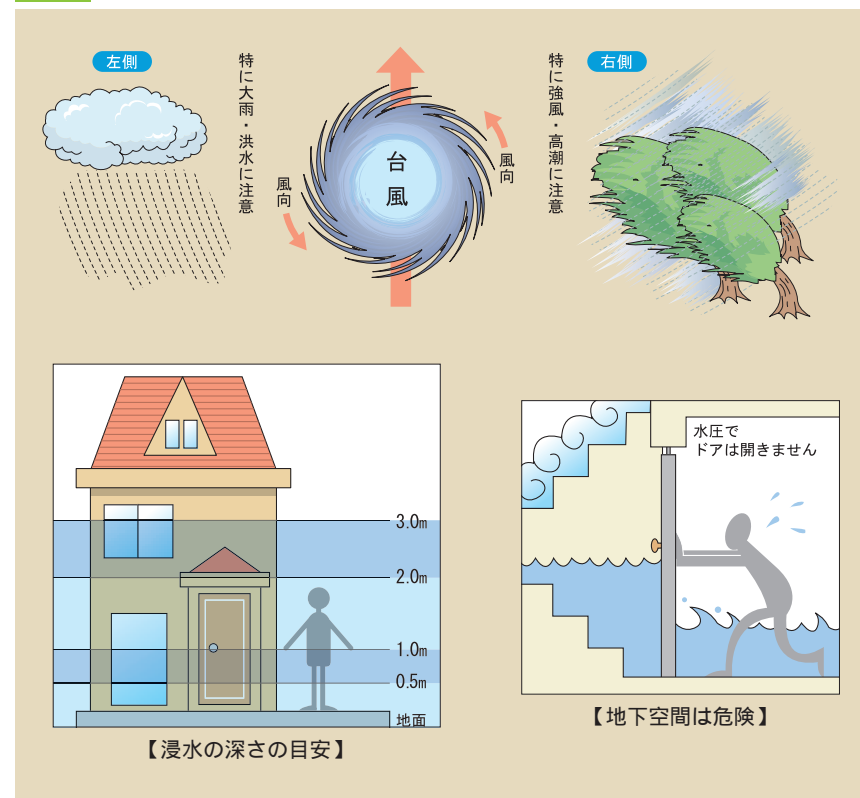
警報 大きな災害発生の危険性があり、具体的な避難準備が必要

洪水避難時に水中歩行できる領域

水位が50cmを越えると、小学生は歩行が困難になります。また、流れ（流速1m/秒程度）があると、30cm程度の水位でも歩行が困難になります。高齢者の場合は水位が1mを越えると歩行が困難になり、流れがあると、60cm程度の水位でも歩行は困難になります。

資料

資料4



参考

• 国土交通省 建築物防災推進協議会
http://allabout.co.jp/house/bosai/subject/msub_yp1taishin.htm

台風、集中豪雨に備えよう

日時	年 月 日(曜日)	グループ	班
時間	時 分~ 時 分	氏名	
天気		特記	気温

作業1 台風、集中豪雨などの水害のときに、家の周りで危険な箇所をチェックしてみよう。
(、 ×、気づいたことを記入)

項 目		調べたこと
家 の 周 り	雨どい	水が流れやすいよう になっているか
		ごみがたまっていな いか
	窓ガラス	ヒビはないか
		ゆるみはないか
	屋根	固定されているか
		雨漏り ^も などはないか
とばされやすい もの		
その他		

住 ん で い る 地 域	山、がけ	崩れそうな箇所	
	川、ため池、貯 水槽、井戸など	増水したとき水があ ふれそうな箇所	
	浸水地域	浸水したことがある 地域	
	その他		

作業2 身近な地域のハザードマップ(災害危険区域予想図)をつくってみよう。